



# Sport Academy

—— スポーツアカデミー2014 ——

## 障害者のスポーツ実施状況

笹川スポーツ財団 研究員  
小淵和也

2015年3月20日(金) 19:00~



## 障害者スポーツの取り巻く現状

- **スポーツ基本法の成立**  
→ 障害者スポーツの推進について言及
- **東京パラリンピック開催決定**
- **障害者スポーツの管轄**  
→ 厚生労働省から文部科学省へ移管

# ● 競技スポーツ

# ● 生涯スポーツ

## オリンピックとパラリンピック 最大の差異

- 障害があること
- 補装具を使用できること
- クラス分け、持ち点制度があること

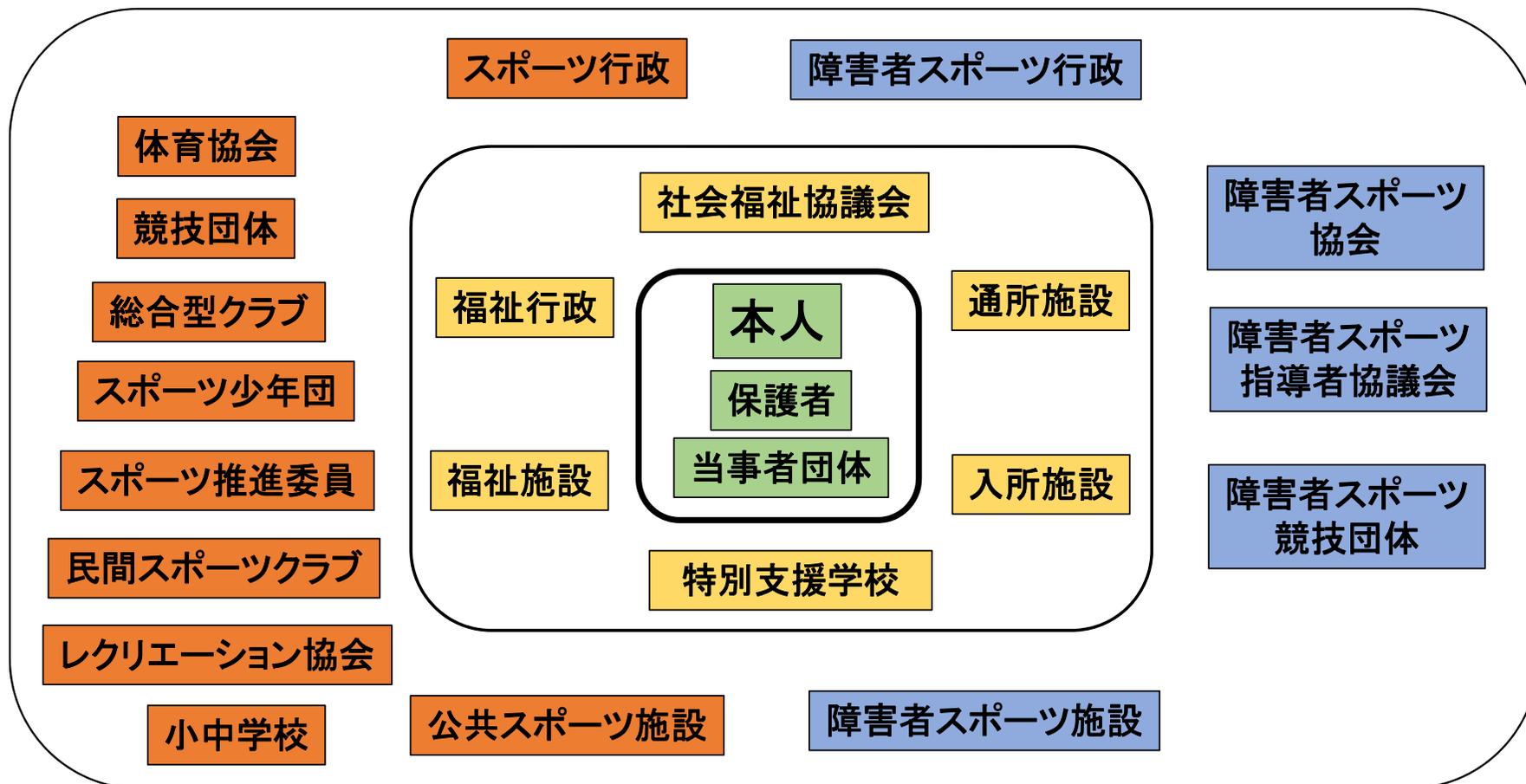
## 障害者スポーツの不思議??

	両下腿 切断	片下腿 切断	
障害程度 【等級】	2級	<u>4級</u>	片下腿切断の方が軽度
クラス分け	T43	<u>T44</u>	片下腿切断の方が軽度
100 <sup>メートル</sup> 走 【世界記録】	<u>10秒57</u>	10秒75	両下腿切断の方が速い

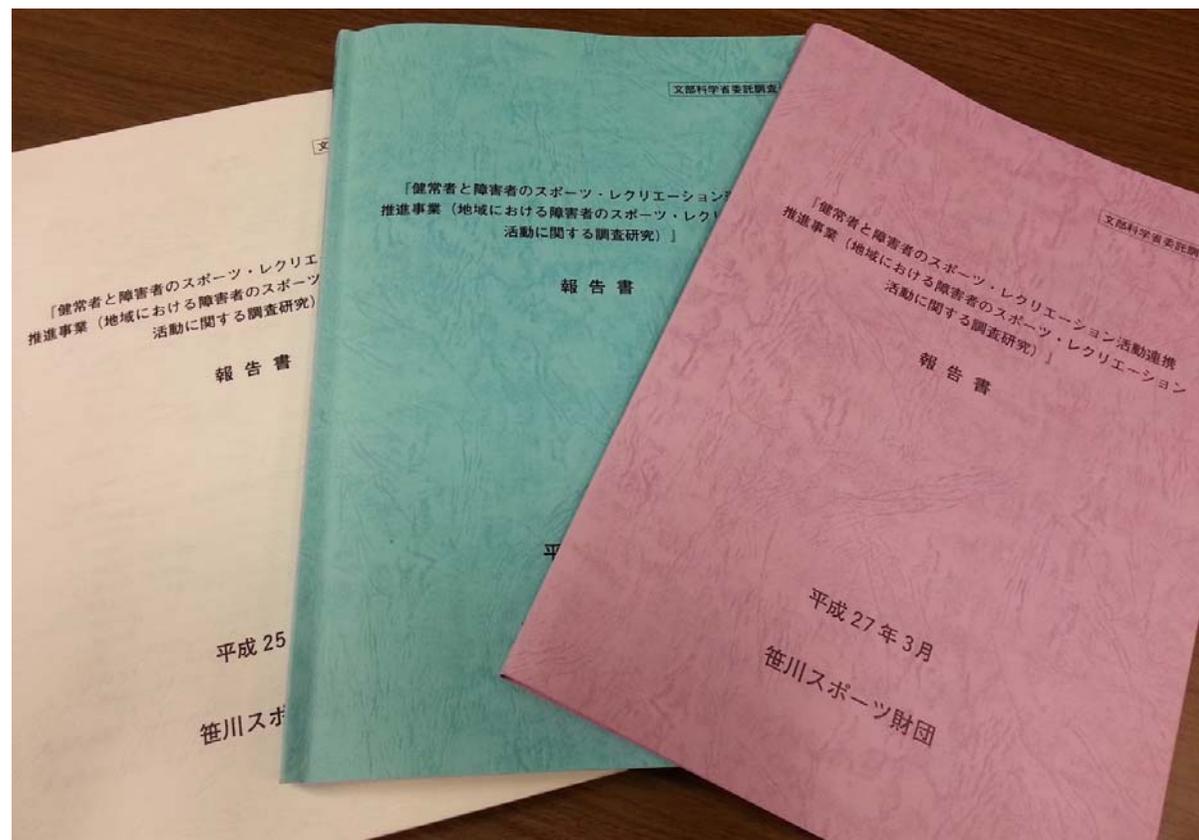
# ●競技スポーツ

# ●生涯スポーツ

# 障害者を取り巻く環境



(2012～2014年度)文部科学省受託調査  
『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業  
(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』



### 3年間の調査で明らかになったこと

	調査対象	調査年度		
		2012	2013	2014
行政	スポーツ振興部局	◎	-	◎
	障害者スポーツ振興部局	◎	-	◎
	福祉部局	-	-	○
スポーツ関係者	競技団体	-	-	◎
	スポーツ推進委員	-	◎	-
	総合型地域スポーツクラブ	◎	-	-
	民間スポーツクラブ	-	◎	-
障害者スポーツ関係者	障害者スポーツ協会	◎	○	○
	障害者スポーツ指導者	◎	◎	-
	障害者スポーツ施設	◎	-	-
福祉関係者	社会福祉協議会	-	-	◎
	当事者団体	-	○	○
	福祉施設	-	◎	-
	障害者本人	-	◎	-
	特別支援学校	-	◎	◎

注)◎(詳細な実態把握)、○(概ね実態把握)

# 障害児・者のスポーツライフに 関する調査

## 「障害児・者のスポーツライフに関する調査」

○調査方法：インターネット調査

《回答者の条件》

- ①障害児・者本人あるいは同居する家族に障害児・者がいる者
- ②障害児がいる場合は7歳以上であること
- ③兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ回答すること

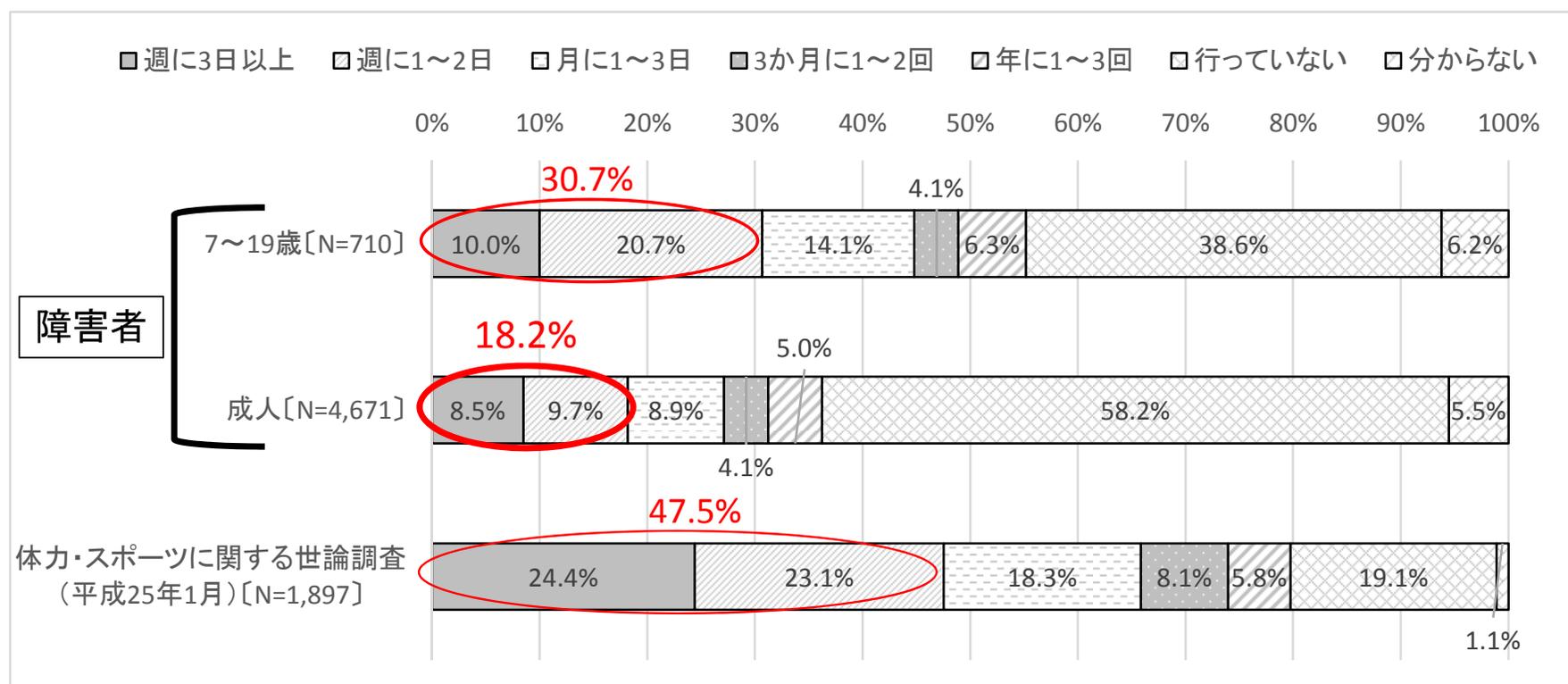
《回収標本数の設定》身体障害(肢体不自由、視覚、聴覚、音声・言語・そしゃく機能、内部)、知的障害、発達障害、精神障害について回答を収集

○調査期間：2013年11月1日～11月15日

○結果：調査対象条件に該当する回答者 4,268人

回答者本人および同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の  
標本総数 5,381人

## 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施日数



## スポーツ・レクリエーションの阻害要因

- 体力がない 26.7%
- 金銭的な余裕がない 25.9%
- 時間がない 14.5%



# 水泳の実施率は全障害種で高い傾向

過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(成人・N=1,954)

	(車椅子不自由)	(車椅子不要)	視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		(音声言語や内部)			
			N=159	N=432	N=181	N=231	N=209	N=136	N=534	N=343						
1位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	12.6	ウォーキング	28.5	ウォーキング	28.2	ウォーキング	32.0	散歩(ぶらぶら歩き)	31.6	ウォーキング	33.1	ウォーキング	34.1	ウォーキング	36.7
2位	散歩(ぶらぶら歩き)	10.7	散歩(ぶらぶら歩き)	26.9	散歩(ぶらぶら歩き)	18.8	散歩(ぶらぶら歩き)	19.5	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	27.3	散歩(ぶらぶら歩き)	32.4	散歩(ぶらぶら歩き)	31.6	散歩(ぶらぶら歩き)	29.7
3位	アイススケート		体操(軽い体操、ラジオ体操など)	16.4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	15.5	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.3	ウォーキング	25.8	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	19.1	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	18.4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	19.0
4位	ウォーキング	10.0	水泳	16.2	筋カトレニング	10.5	筋カトレニング	11.4	水泳	17.0	水泳	15.4	筋カトレニング	12.0	水泳	2.2
5位	筋カトレニング		筋カトレニング	12.0	海水浴	3.0	水泳	9.1	ボウリング	16.7	ボウリング	11.0	水泳	11.6	釣り	11.1
6位	水泳	5.7	釣り	7.9	釣り	7.2	ボウリング	7.8	ハイキング	10.0	筋カトレニング	10.3	ジョギング・ランニング	8.6	筋カトレニング	10.8
7位	海水浴	5.0	ゴルフ(コース)	6.0	水泳	6.6	釣り	6.5	海水浴	6.2	ジョギング・ランニング	8.8	海水浴	6.6	ゴルフ(練習場)	6.7
8位	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)		ゴルフ(練習場)	6.0	ジョギング・ランニング	6.1	海水浴	6.1	ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	4.8	ハイキング	8.1	ボウリング	6.2	ボウリング	6.4
9位	車いすテニス	4.4	ボウリング	5.1	ボウリング	5.5	ハイキング	5.6	登山	3.8	登山	6.6	釣り	6.0	ゴルフ(コース)	6.1
10位	釣り		アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	4.4	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	4.4	サイクリング	5.6	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.8	登山	6.6	サイクリング	5.8	サイクリング	5.5
11位	ふうせんバレー		ジョギング・ランニング	4.4	キャッチボール	4.4	バドミントン	5.6	バスケットボール	3.3	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	6.6	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	5.4	海水浴	4.7

## 障害者向けプログラムを開催している日本スイミングクラブ協会登録クラブ数

(N=1,060)

対応カテゴリ	クラブ数	割合
障害者(身体・知的区別なし)	108	10.2%
知的障害者	80	7.5%
身体障害者	6	0.6%
合計	194	18.3%

## 【まとめ】

1. スポーツ実施率（週1回以上）は18.2%

2. 水泳との親和性が高い

3. 阻害要因は、体力、お金、時間

# 特別支援学校のスポーツ環境に 関する調査

## 「特別支援学校のスポーツ環境に関する調査」

### ○調査対象:

平成24年度全国特別支援学校一覧(2012年5月1日現在)をもとに、  
全国の特別支援学校(1,211校。分校、分教室含む)を対象。

### ○調査方法:質問紙調査

### ○主な調査内容:

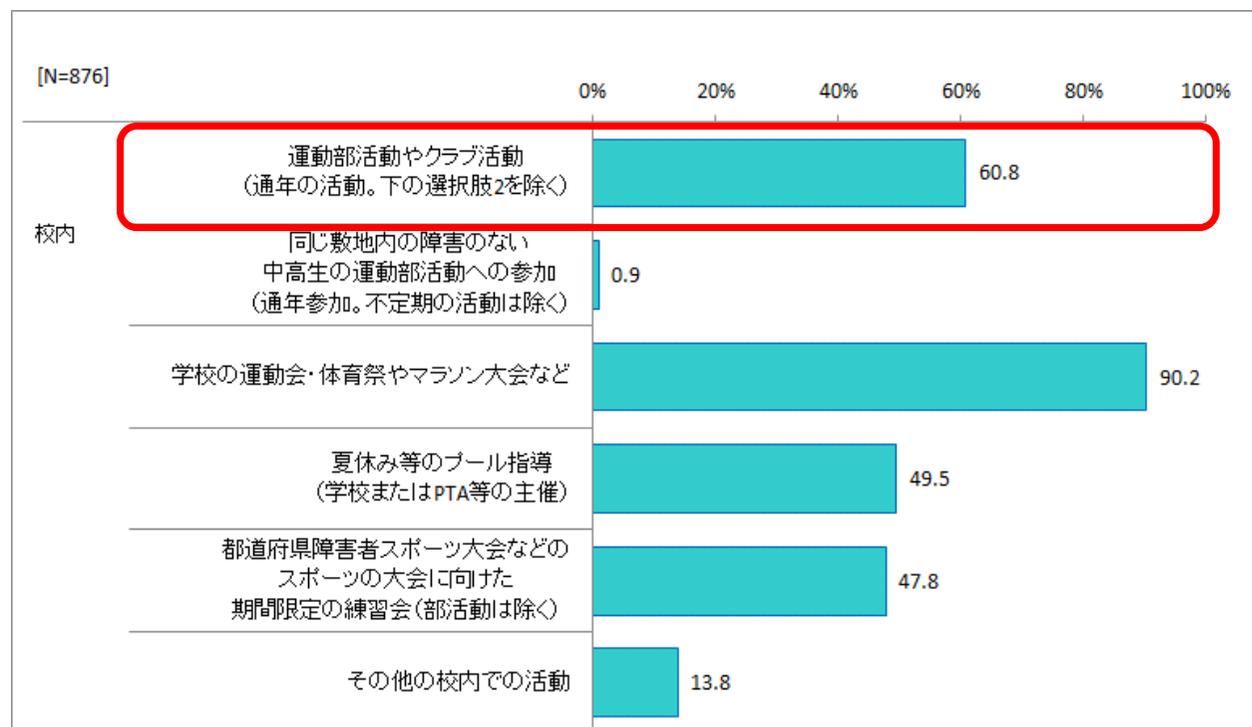
- ・通常の体育の授業以外の活動
- ・部活動やクラブ活動の状況
- ・スポーツ施設の状況
- ・児童生徒の自主的なスポーツ活動につなげるための配慮

### ○回収数909校(回収率:75.1%)

### ○調査期間:2013年9月12日～11月30日

○体育の授業以外におけるスポーツの機会について  
約9割の学校が「学校の運動会・体育祭やマラソン大会など」、約6割の学校が「運動部活動やクラブ活動」。

体育の授業以外におけるスポーツの機会(複数回答)



○体育の授業以外におけるスポーツの機会について(障害種別)  
運動部活動やクラブ活動は、「聴覚障害(単置)」で9割、「視覚障害(単置)」  
で8割を超えている。

体育の授業以外におけるスポーツの機会(障害種別)

		視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害+肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
		N=56	N=74	N=439	N=95	N=54	N=98	N=60
校内	運動部活動やクラブ活動 (通年の活動。下の選択肢2を除外)	80.4	90.5	61.0	29.5	29.6	70.4	66.7
	同じ敷地内の障害のない 中高生の運動部活動への参加 (通年参加。不定期の活動は除外)	1.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.7
	学校の運動会・体育祭やマラソン大会など	96.4	95.9	93.2	77.9	66.7	91.8	93.3
	夏休み等のプール指導 (学校またはPTA等の主催)	37.5	39.2	56.3	51.6	18.5	53.1	43.3
	都道府県障害者スポーツ大会などの スポーツの大会に向けた 期間限定の練習会(部活動は除外)	67.9	29.7	48.1	43.2	14.8	68.4	53.3
	その他の校内での活動	7.1	6.8	14.4	14.7	37.0	11.2	6.7

※単置校:単一の障害種別を対象にしている学校  
※併置校:複数の障害種別を対象にしている学校

## ○運動部活動・クラブ活動の実施種目

小学部から高等部を通じて、「陸上競技」と「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」は多く実施されている。

運動部活動・クラブ活動の実施種目(複数回答)

順位	高等部(N=478)	割合
1位	陸上競技	60.7%
2位	サッカー (ブラインドサッカー含む)	42.9%
3位	バスケットボール	39.5%
4位	卓球	33.9%
5位	フライングディスク	19.9%

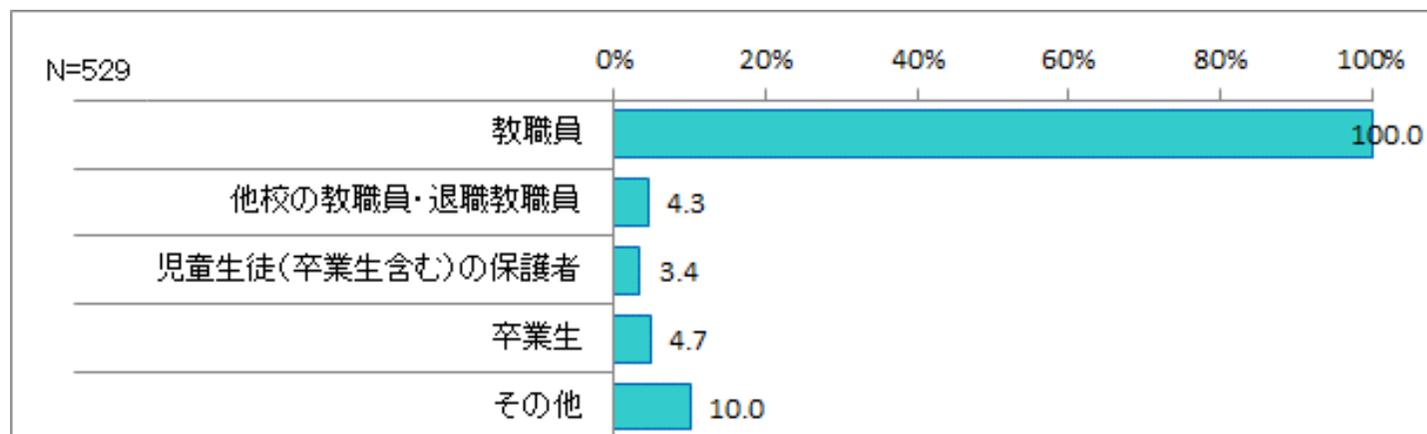
順位	高等部(N=41)【視覚障害】	割合
1位	フロアバレーボール	73.2%
2位	グランドソフトボール	68.3%
3位	サウンドテーブルテニス	56.1%

順位	高等部(N=26)【肢体不自由】	割合
1位	陸上競技	65.4%
2位	ボッチャ	53.8%
3位	ハンドサッカー	50.0%

## ○指導者・サポートスタッフ

運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフとして、すべての学校が「教職員」と回答している。

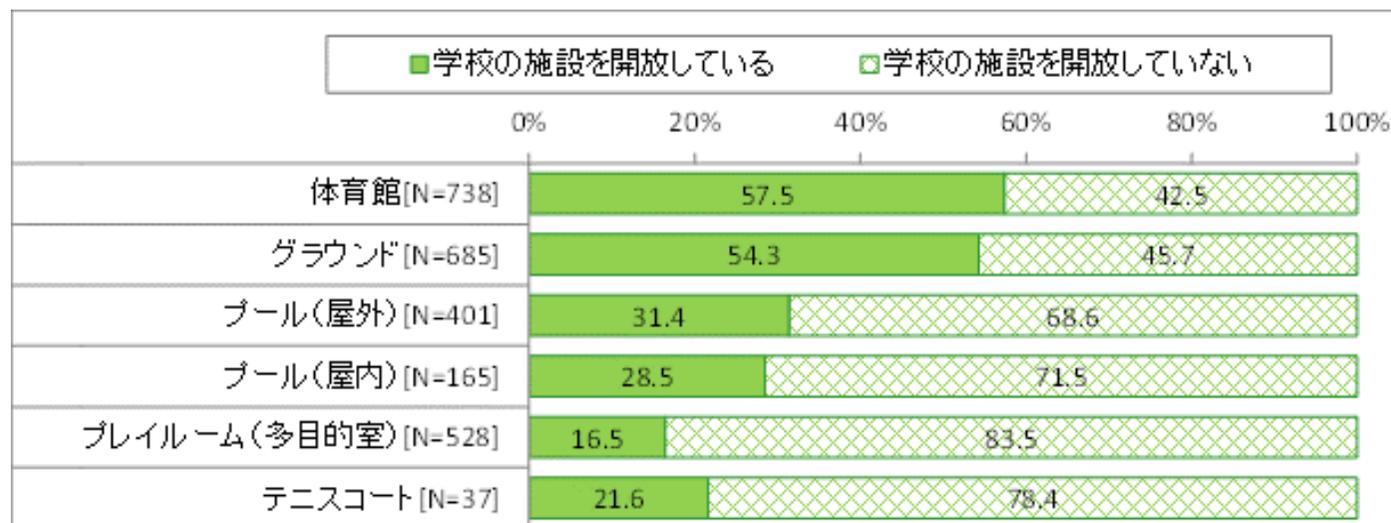
運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフ(複数回答)



## ○運動・スポーツ活動のための施設

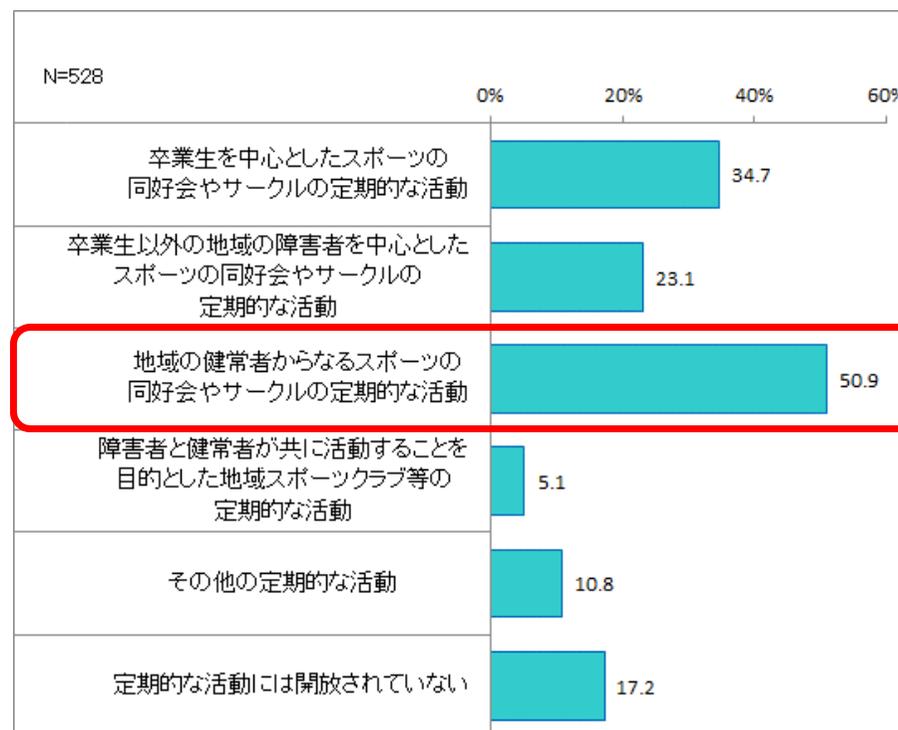
保有している学校体育施設の開放状況を見ると、「体育館」が約6割、「グラウンド」が約5割、「プール(屋外)」が約3割である。

学校体育施設の自校の幼児児童生徒以外への開放状況



## ○学校開放施設で行われている活動

「地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約5割、「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約3割である。



## 【まとめ】

### 1. 運動部・クラブの設置は6割

(聴覚と視覚は8割以上、肢体不自由は3割)

### 2. 指導者・サポートは教職員

### 3. 学校開放施設を利用した卒業生の活動は3割